

聞きかじり、デーツの話

ここ湾岸地域（と言っても UAE とオマーンしか見ていないが）で砂漠に良い作物は何だと聞くとほとんどの人々は「それはデーツだ」と答える。ご存じのようにデーツは昔から砂漠の住民の主食とされてきた。オアシスのあるところにデーツあり。このオアシスの権利をめぐる多くの戦いが行われてきたと聞く。実際、デーツは非常に乾燥地に適応している。受粉時期、デーツは極端に湿気を嫌う。また、かなりの塩水でも栽培できる（7,000ppm 以上の塩水で灌漑しているところもあった）。さらに、葉は横に大きく広がり、下を陰にする（日陰樹と言う）。このためデーツの下では牧草、果樹、野菜などが栽培できる。また、実（み）は非常にカロリーが高く、保存性もあり、1年以上もそのまま持ち運べる。

ところでこのデーツ栽培は、オアシスに自然に生えているものからただ実を取っただけで簡単そうに思えるが、見ていると決してそうではなくなかなか大変なようだ。デーツの栽培で最も重要なのは受粉である。4月頃、マスカットなどのスーク（市場）に行くと何か長い「しゃもじ」のようなものを売っている。よく見ると先が割れそこに小さな実のようなものがびっしり入っている。実はこれがおしべである。良質なデーツを生産するには良い雌株によい花粉を受粉させなければならない。受粉に失敗すると写真のように実が生育せず、商品にはならない。さて受粉が終わっても、休憩してお茶を一杯という訳にもなかなかいかない。実は5月から6月にかけてどんどん大きくなる。一つの枝に多いときでは40kgもの実をつけるので、枝が折れないように「支え」をしてあげる必要がある。収穫は品種によって異なるが7月から10月にかけて行われる。最も忙しいのは7月下旬頃と聞く。収穫後、古い枝の除去、幹の手入れなどを行っている。

良質のデーツを生産するにはこのような手入れが必要であるが、同時にデーツの品種も重要だ。デーツは数百種の品種があると聞く。苗は脇芽を切り取り、別に植え、活着したものを商品として売る。値段も千差万別で、ここオマーンでは1株1,500円程度から高いものでは12,000円程度までである。ではどうして種から苗を作らないのか。市販されているデーツの実を食べ、種をばいと捨てても良く発芽する。実はデーツは上記のように雌株と雄株があり、この見分けは苗がかなり大きくなるまでなかなかわからないためである。デーツの農園では10株の雌株につき、1株の雄株が植えられている。苗を植えて、3～4年で実を付けはじめ、5年くらいしたらようやく市場へ出せるようになるとのことである。

デーツは町でスークなどの専門店で売られている。国内産ばかりでなく（実はここオマーンの国内産は品質があまり良くないらしい）、サウジ（最高級）、イラン、イラク、チュニジアからも輸入されている。食べるのは人間だけでなく、競走用のラクダにも滋養を付けさせるためデーツの実を食べさせる。日本にも輸出され、ある会社のとんかつソースの材料になっているとももの本で読んだことがある。

（サララにて：財津）



受粉用のデーツのおしべ



受粉後のデーツの実(右側は受粉していない)